

14日間の選挙戦幕開け

10・26
川崎市長選

任期満了に伴う川崎市長選が12日告示され、26日の投票に向け、14日間にわたる選挙戦が始まった。過去最多となる6人の候補は街頭などで第一声を上げた。福田市政3期12年の評価をはじめ、人口減少時代でもいまだに成長を続ける155万都市の未来を見据え、活発な論戦を市民は求めている。

(川崎市長選取材班) ■本記1面に現職の福田紀彦氏(53)は「R武蔵溝ノ口駅近くでマイクを握った。ちょうど6年前の10月12日は東日本台風が市内にも甚大な被害をもたらした」「(この日を)忘れたことがない」「どうやって市民の安全、安心を守るかというところに注力してきた」と語り、今後も継続する姿勢を示した。

「循環」をテーマにした七つの柱を含む約30の政策を新たな公約として掲げ、街宣車を使用しない選挙戦を宣言。「共感の輪を広げていきたい。素晴らしい川崎市を皆さんと一緒につくってきたい」と約2500人の聴衆に語りかけた。

求められる活発な論戦



川崎市長選に出馬した候補の演説に耳を傾ける市民ら
=12日、川崎市内(画像の一部を修整しています)

野末明美氏(60)は市内屈指の繁華街・銀柳街(同市川崎区)で選挙戦をスタート。医療従事者として命と健康を守り続けてきた経験も踏まえ、物価高対策を念頭に「豊かな財源を大規模開発に湯水のようにつぎ込んでいくのではなく、私たちの市民生活のために使う。市民の皆さんとともに変えていきたい」と強調した。

福田市政にも批判姿勢を崩さない。「福祉トップクラスの川崎市に生まれ変わることができる。市民生活最優先に必ず変えていく。未来を皆さんとともに切り開いていくことを約束する」と力を入れた。川崎市政を任期途中で辞職し、市長選に挑んだ山田瑛理氏(42)は川崎駅東口駅前広場の繁華街・銀柳街(同市川崎区)で選挙戦をスタート。医療従事者として命と健康を守り続けてきた経験も踏まえ、物価高対策を念頭に「豊かな財源を大規模開発に湯水のようにつぎ込んでいくのではなく、私たちの市民生活のために使う。市民の皆さんとともに変えていきたい」と強調した。

「差別者と知らせる」

選挙ヘイトに市民ら抗議

差別禁止法を求めて

時代の正体

川崎市長選が告示された12日、立候補したレイシストの宮部龍彦氏(46)は街頭演説で、在日コリアンへの差別を煽るデマを並べ立てた。有志の市民が投票しないよう落選運動に取り組み、道行く人々に「演説しているのは差別主義者です」「差別には一票たりとも入れてはいけません」と注意を喚起した。とりわけ選挙では許されない差別煽動を行う桁外れな卑劣さに対し、ヘイトスピーチ罰則条例を持つ川崎市民の良識を示すと呼びかけた。

宮部氏は被差別部落出身者



宮部氏(奥中央)がヘイトスピーチをしていることに抗議するプラカード
=12日、川崎市川崎区

への攻撃を繰り返す極めて悪質なレイシスト。部落の地名をささす出版やインターネットでの掲載が最高裁で差別であり違法と認定され、法務省や大阪府から人権侵害をやめよと勧告されてもやめない執拗さで知られる。立候補に当たって川崎市に暮らす目コリアンを標的にヘイトスピーチを始め、デマを指摘する報道も無視して差別を煽り続ける。

市民は演説する宮部氏の周囲で「ヘイトスピーチ監視中」「被差別部落の地名」

耳を傾けるとともに交流サイト(SNS)を積極的に活用し、幅広い世代に思いを届け、開票日に奇跡を起こすように頑張っていく」と熱弁を振った。

故郷の新百合ヶ丘駅北口から第一歩を踏み出した國谷源太氏(25)は「安全安心の街」

同広場を第一声の場に選んだ。同広場を第一声の場に選んだ。同広場を第一声の場に選んだ。

だ関口英氏(67)は自身が自閉症スペクトラム(ASD)であることを打ち明け、「他の発達障害の人が勇気づけられることがあればいい」と出馬理由を説明。「思想信条の違いを超えて団結して戦おう。極右と化した政権党による支配に反対して戦おう」などと主張した。

おこわり
川崎市長選に立候補している宮部龍彦氏については、経歴や出馬に当たっての主張に著しい差別的言動があり、差別が拡散する恐れがあるため、異なる扱いとしております。

(石橋 学)